

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106332		
法人名	社会福祉法人 岡山中央福祉会		
事業所名	グループホーム さっちゃん家		
所在地	岡山市東区金田819		
自己評価作成日	平成29年11月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症になっても今までの生活ができるよう利用者、家族の想いを大切に、安心して最期まで暮らせるホームを目指しています。そしてより地域に開かれた事業所となるよう地域行事に積極的に参加し、さっちゃん家の行事には声をかけ地域の方が一人でも多く参加して頂けるよう心がけています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3370106332-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成29年12月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問すると、地域の「友の会」の人が庭で餅つきの真っ最中。そのまま庭で利用者の皆さんと一緒に餅つき大会を楽しみ、つきたての「きな粉もち」を頂いた。地域との密着度が深く、併設のデイサービスと一緒に地域と一体となって活動・交流している場面を見させてもらい、まさに「さっちゃん家」の行事が、地域の行事になっていると感じた。H28年7月に就任した管理者は「利用者が穏やかに毎日過ごし、家にいるような生活を送って欲しい」「自分の親でも入れるような施設をと考えている」と熱い抱負を語ってくれた。「その人がその人らしく」人生の終焉を迎えるその日まで、穏やかに人としての尊厳を持って生活してもらおうと、職員は日々の支援に取り組んでいる。その一つが個別の外出支援であり、利用者一人ひとりの希望に沿った外出・外食に力を入れている。このホームの利用者へのケアは群を抜いており、自分の行きたい所へ行けるのは実に嬉しい事であり、利用者の満足度も高いと思う。地域に開かれたホームとしてこれからも益々活躍して下さい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に基づき「その人がその人らしく」を職場会議で共有し方針を提示し実践している。	毎年標語を定め今年度は「挨拶はあなたと私の愛ことば」を掲げている。家庭的な雰囲気大切に、決して上から目線ではなく、一人ひとりに寄り添いながら、その人らしさを生かす支援に努めている。個々の希望に沿った外出支援に力を入れて実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事への参加を行い地域交流を図っている。施設の行事をお知らせし参加していただけるよう努めている。	町内会の総会に職員が出席しており、地域との関わりは深く、ホームの行事が地域の行事になっている。今日は地域住民の「友の会」の協力でデイサービスと合同で「餅つき大会」だった。保育園児との交流、ボランティアの訪問等、地域との幅広い交流がある。	母体法人の組織活動の影響も大きいとは思いますが、この地域の持っている介護力やホームの環境がとても良い。このように地域がとても協力的なホームは数少ない。これからも地域交流を大切にしっかり地域に貢献して下さい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議へ入居者様にも参加して頂き情報交換行いつつ、認知症への理解へ努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議参加への案内を行い、施設での取り組みについて報告や話し合い、意見をもらいサービスの向上に活かしている。	市の担当者、地域包括、町内会長、民生委員、公民館分館長、派出所所長、地域支援者、家族、利用者等、実に多彩なメンバーが集い、有意義で活発な意見交換をしている。議事録を見ると「避難訓練はどうしているか？どんな活動をしているのか？」等の質疑応答の様子がよく分かる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加依頼を市町村へ行っている。利用者、職員との交流も図っている。	運営推進会議には市事業者指導課、地域包括の参加があり、ホームの活動や実情をよく理解してもらっており、情報提供をしてもらい、何かあれば相談をしている。市主催の外部研修に参加して広くスキルアップを図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会を行い知識を深めるよう努めている。	日常的に玄関の施錠はなく外に出たい人には職員が付き添って散歩等に行っている。帰宅願望が強い人には、職員と一緒に車で自宅付近へ行ったり、話を聞く、手伝いをしてもらう等して気分転換をもらっている。身体拘束・虐待の研修をして、拘束のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会を行い意識を統一するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括センターの協力を得えて支援できる体制づくりを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明をし理解して頂けるよう努めている。改定時にも同様に文章にて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等申し立て先の第三者機関がある事を知らせ連絡先を伝えている。文書でも職員へ伝わるようしている。又、法人内でも苦情、相談窓口を設けている。	年1回敬老会に併せて家族会を開催して親睦や交流を図り、「さっちゃん家通信」を年4回発行している。毎月のお便りに写真を添えて、担当者が家族に生活の様子や状況をお伝えし、家族の面会時には積極的に話をして意見や要望を聞くようにしている。	毎月、その人への個別支援を考えて家族へ写真と手紙を送付しているが、手紙のコピーが残されていないのが残念である。ホームでの生活歴にもなるので、今後は是非、記録と同様に残して欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議、委員会、カンファレンスで意見や提案を聞き反映している。	GH・併設のデイサービス合同で毎月職員会議をしている。新管理者が就任して1年数ヶ月経過した。職員同士は言いたい事を言える関係であり、コミュニケーションが良い。カンファレンス会議録を見ても職員間で提案を出し合っている様子がよく分かる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を年に2回を目標とし職員の個人目標を把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修へ参加し個人のスキルアップを行っている。又研修の内容を参加できていない職員へ報告し研修内容を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加し、他事業所の取り組みを学びサービス向上に活かせるよう施設へ持ち帰り共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向に耳を傾け充実した生活を送れるように支援し信頼関係が持てただけよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から困っている事要望等とを聞きスタッフ間で共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を必要としているか見極めその情報をスタッフ間で共有し柔軟に対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などできる事は一緒に行い役割を持っていただく事で充実した日々を送っていただいている。畑仕事、草抜きなども一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者とその家族の個別支援を行い又、面会時にはゆっくり過ごして頂けるようはいろいろを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話、面会時にはお話できる環境づくりを行っている。	併設のデイサービスの人と一緒に、「友の会」の人がついてくれたお餅を皆で頂いた。このホームでは顔馴染みの人との交流が日常的にあり、地域と一体となったの活動がある。以前いたケアハウスへ行き職員・利用者の顔馴染みに会って喜ぶ人もいる。家族の面会も多く、馴染みの関係が続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の間関係を把握し、それによってストレスを感じないように配慮している。レクレーションも輪になり利用者同士の関わりをもつ場、時間を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に行事へのお知らせ」を行い途切れないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の趣味、特技を把握し選択できるような支援を行い本人本位の生活が送れるようつとめている。	日頃の関わりの中から昔の事(仕事等)を掘り出して話を聞いたり、家族からも情報収集している。一人ひとりが自分の思いで生活出来るように努め、昔馴染みの所へ買い物に行ったり、図書館に行く等、毎月の個別支援にも取り組んでいる。	その人の人生の楽し方や思い出話を聞き出し、生活の中に活かそうとしているのはとても良い。しかし、情報収集した記録がなくては職員の共有が難しいと思えるので、聞き取った内容を生活歴に追記していった下さい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の趣味を活かした活動を行い楽しんで生活を送って頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスを毎月行い日々の様子を把握し共有するよう努めている。バイタルチェックや一日の過ごし方、表情、訴えなどの変化に注意し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の様子を面会時や月に一度の手紙で報告している。要望、意見がある時はそれに添ったケアプランの作成に努めている。	利用者の担当制があり、聞き取った本人・家族の意向を基に、計画作成担当者が中心となって職員間で話し合いプランを作成している。定期的にモニタリングをして、身体的・精神的支援の目標を立ててあり、現状に則したプランになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子を個人記録に記録し職員の申送りノート等で情報を周知共有しながら実践や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに対し支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内への行事、イベントなど参加に参加し地域との交流を大切にしながら気軽に立ち寄って頂けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族を第一に考え、かかりつけ医と事業所が良い関係を保ち適切な医療を受けることができるよう努めている。	大半の人が母体法人のホームの協力医を主治医としている。受診は原則家族にお願いしているが、管理者がほぼ同行している現状であり、訪問歯科は希望の利用者のみ利用している。協力医の定期的な往診や訪問看護もあり、日頃から医療との連携も出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護をうけている。急変時には主治医へ連絡をし対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時には入院先へ行き病院関係者と情報交換し入院中の様子を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り希望のある家族へは早い段階から話し合いを行い事業所でできる事を説明しなるべく家族の意向に沿った支援ができるよう努めている。	過去には1件の看取りを経験した事があるが、近年での実施はない。ホームでの看取りを希望している家族がいるので、医療関係・家族等の協力が得られれば、ホームで出来る限りの支援をしようと思っている。職員は研修をして、看取りに対する知識や心構えを持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置している。スタッフ全員が、応急手当、AEDの使用が迅速に出来るよう消防署の協力のもと訓練をしている。マニュアルを作成し掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回地域住民の協力を得て火災避難訓練を行っているが水害時の避難訓練は出来ていない。	地域住人参加型で避難誘導や消火器使用の避難訓練をしている。今回は居室が火元という設定で夜間想定での避難訓練を実施した。岡山市消防署の応急手当講習会を受けたり、緊急通報システムも導入した。今後は水害対策を検討中との事。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声かけには他者に聞こえないよう耳元で行う。待遇委員会を設置している。	一人ひとりを尊重し、出来る事をしてもらい、手紙を日々少しでも書いてもらう、一緒に書く、歩行訓練をする等して自立支援につなげている。杖歩行で一人でトイレに行こうとしている人の意思を尊重し、職員が傍について安全確認をしながら見守っていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間をかけ利用者の希望が叶うよう無理やりの支援にならないよう選択できるよう声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活が流れ作業ではなく利用者様が中心に一日を過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪は毎朝行い、服などの汚れ等に気を付けその方にあった衣類を着ていただくよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物の嗜好を把握し献立をたてている。盛り付け、配膳を一緒に行い会話を取り入れている。	食材を外部委託していたが、今年の秋から以前の様に職員が買い物をして三食手作りになった。昼食のみ併設のデイサービスの食事担当が調理してくれる。午前は皆さんと一緒につくたてのきな粉もちを頂き、午後はエプロン姿の利用者がホットプレートで作ったおやつを美味しく頂いた。楽しい食事場面だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖分、塩分をなるべく控えている。旬の食材を使用するよう努めている。水分については、だいたいの時間を決めとっていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後声かけを行い、本人の習慣に合わせ無理のないよう実施している。個別に歯科往診を希望される方への支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期誘導を行い、その方の排泄パターンをつかみ排尿パターンに応じた援助、声かけを行っている。	排泄が自立で布パンツの人もいるが、殆どの方はリハビリパンツにパット。紙パンツで退院し、職員の声かけや誘導で布パンツに改善していった例や布パンツに替えて汚染が減った例もある。トイレの中にホットタオルを常備して清潔保持に気をつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に気を付け繊維の豊富な物を取り入れるよう心がけている。又、身体を動かすよう体操を毎日するよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最終入浴日を把握し日にちが空かないよう注意している。入浴拒否の方に対しては時間を置き再度の声かけを行っている。	週3日午後入浴が基本。長湯を好み職員の見守りが必要な人もいるが、入浴拒否が激しく職員に対して手が出る人には、二人介助で更衣をする、ゆっくりと急がずに対応する等、あの手この手の工夫をしている。全員、浴槽で入浴出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調に合わせて休息を促している。暖房を使用している時は加湿器を設置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの職員が薬の把握をしており状態を観察し必要であれば医師への相談をしている。服薬前の再度の確認を職員で声をかけあっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事のできる事は一緒に行っている。畑仕事の得意な方には畑仕事の時間を作っている。興味を示された事への支援にも力をいれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じ外出や行事への参加ができるよう心がけている。お誕生日には本人の希望があれば外食支援を行っている。家族との外出への取り組みが出来よう声をかけさせていただいている。地域サロン、福祉カフェにも参加している。	友の会の一日旅行に家族の協力を得て利用者も一緒に参加したり、花見ドライブやバラ園、神崎梅園等にも出かけて、季節折々の自然を楽しんでいる。個別の外出支援にも力を入れており、買い物、図書館、ドライブ、外食、散歩等、一人ひとりの希望に沿った外出に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方はご自分で持たれ外出時には使われることがあり記録に残している。今はレベル的に自己決定は困難な現状である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された方へは支援している。その方へ贈り物が届いた時にお礼の電話などお話が出来るよう働きかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には空気清浄機を導入し快適な状態を保っている。写真、飾り等四季を感じられるよう工夫している。冬には加湿器を導入している。	民家をそのまま利用した間取りを活かして、家庭的な雰囲気と空間になっている。決して広くはないが、段差もリハビリに活用し、テーブルやソファが適度な間隔で配置され、利用者は自分の好きな居場所で寛いでいる。壁には塗り絵や貼り絵等の作品が展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人になれる空間は自室。共有空間共有空間には空気清浄機を導入し快適な状態を保っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の居室は入居時畳の張替えを行い使い慣れた家具類を持って来ていただき	仏壇・家族の写真・家具・人形・趣味の作品等沢山の愛用品に囲まれ、自宅の部屋をそのまま再現したような居室もあれば、その人の状態によりあまり物を置かないシンプルな居室もある。どの部屋もその人らしさが滲み出るような居心地の良い環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	迷う所、トイレなどには札をつけ利用者様にわかる様配慮している。できるだけ自立した生活を送れるよう工夫している。		